# ベイブ（1995）

BABE

**メディア** 映画
**ジャンル** ファミリー　ファンタジー　コメディ
**製作国** オーストラリア
**色彩** Color
**時間** 92分
**初公開日** 1996/03/09
**公開情報** Ｕｎｉ＝ＵＩＰ

**【解説】**
　世界一の牧羊豚を目指す子ブタのベイブを描いた動物映画。本物と、特撮工房ジム・ヘンソンズ・クリーチャー・ショップの手になるアニマトロニクス、それにＣＧを加えて、人間のように芝居をする動物を生み出している絵作りが驚異的だが、舞台となる農場の描写も含めて、ファンタジーと呼ぶのが一番相応しいような作品である。
　収穫祭の賞品として農場主アーサーにもらわれた子ブタのベイブ。牧羊犬の母犬フライはベイブに農場のルールを教えた上、自分の子供たちと同じようにベイブを可愛がってくれる。牧場に現れた羊泥棒をいち早くベイブが感知した事からアーサーはベイブに羊の見張りをさせようと思いつくが、臆病なベイブには手も足も出ない。だが心優しいベイブは羊たちにお願いする事で牧羊犬の代わりを見事に果たしたのだ。フライの夫レックはプライドを傷つけられベイブに辛く当り、フライとの仲も悪くなる。やがて牧羊犬コンテストの日が迫り、アーサーはなんとそれにベイブを出場させようとするのだが……。
　ディズニー・ライクな“可愛い動物頑張る！”的作品だと思うと、随所にそれを裏切られる（もちろんいい意味で）描写が溢れていて少なからず驚かされる。ブタの宿命は喰われる事と断言され、仲間はいとも簡単にディナーに並び、そして肝心のクライマックスではなんとベイブが努力する訳ではないのだ。頑張って頑張って栄冠を勝ち取るのではなく、正直に生きて来た事が勝利をもたらしてくれるのだ。ある意味でこの発想は凄い。そしてそれでもこの映画がエンタテインメントとして確立している事が立派だ。「ベイブ」は動物版“いいひと”だった。

**【クレジット】**

| | | |
|---|---|---|
| **監督** | クリス・ヌーナン | Chris Noonan |
| **製作** | ジョージ・ミラー | George Miller |
| | ダグ・ミッチェル | Doug Mitchell |
| | ビル・ミラー | Bill Miller |
| **原作** | ディック・キング＝スミス | Dick King-Smith |
| **脚本** | ジョージ・ミラー | George Miller |
| | クリス・ヌーナン | Chris Noonan |
| **撮影** | アンドリュー・レスニー | Andrew Lesnie |
| **音楽** | ナイジェル・ウェストレイク | Nigel Westlake |
| **出演** | ジェームズ・クロムウェル | James Cromwell |
| | マグダ・ズバンスキー | Magda Szubanski |
| | ゾーイ・バートン | |
| | ポール・ゴダード | Paul Goddard |
| **声の出演** | クリスティーン・カヴァナー | Christine Cavanaugh |
| | ミリアム・マーゴリーズ | Miriam Margolyes |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

| | |
|---|---|
| ダニー・マン | Danny Mann |
| ヒューゴ・ウィーヴィング | Hugo Weaving |
| ミリアム・フリン | Miriam Flynn |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.